

2018年5月20日(日)
於：ジャパン・ハウス(JH)

河野太郎外務大臣によるジャパン・ハウスでの講演会

マルクス・フレイタスFAAP 教授(モデレーター)：

皆さま、お早うございます。本日、ジャパン・ハウスでのディスカッションに皆さまをお迎えすることをとても嬉しく思います。

始める前に一つだけ確認させて下さい。皆さま全員通訳を聞いているでしょうか。もし通訳機器が必要でしたら、会場の奥で受信機を引き取って頂けます。今回のディスカッションに皆さまにも参加して頂き、最大限に充実して頂きたいと思います。

今回のディスカッションの時間は1時間です。質疑応答は、WhatsAppで行いますので、ご質問があればここに表示している電話番号に送って頂けます。今回のディスカッションには外務大臣のご講演があり、その後リクペロ大使にコメントして頂き、私も少しコメントさせていただきます。途中で質問があれば、この電話番号に送って下さいますようお願い致します。

ブラジルに河野太郎日本国外務大臣を歓迎することをとても嬉しく思います。外務大臣として、今回が初めてのご来伯だと思います。河野大臣のプロフィールを読むと、河野大臣について多くのことを知って頂けます。

河野大臣は海外プログラムを通じてジョージタウン大学に入学し、卒業されました。ジョージタウン大学は素晴らしい海外プログラムがあります。日本の国会には1996年に入り、当選後、再当選されました。国家公安委員会委員長や、規制改革、防災、消費者及び食品安全における課題対応を含む内閣府特命担当大臣を務められました。日本における地震数やその対応について演説されたこともあり、とても手間のかかる業務である話をされています。2016年から外務にも取り組まれています。

河野大臣のご講演後に、ブラジルではとても著名なリクペロ大使にご挨拶頂きます。リクペロ大使は財務大臣、環境大臣、駐日本ブラジル大使、国連貿易開発会議事務局長も務められています。お二人が参加されていることは本当に嬉しいことです。これ以上時間を奪いたくありませんので、河野大臣にご講演頂きます。宜しくお願い致します。

河野太郎大臣：

以下、外務省による翻訳版を参照

https://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/sa/br/page4_004067.html

モデレーター：

大臣、今後、頻繁にブラジルを訪れて下さるために、本当に飛行機をご購入することを願っています。(笑) 続きまして、ルーベンス・リクペロ大使のお話を聞く機会を頂きます。少々お待ちください。申し忘れていたことがあります。只今ライブストリーミング中ですので、フェイスブックを通じてライブでご観覧頂けます。また、中南米在住の日本代

表者が何人かご出席です。

リクペロ大使：

有難うございます。今回は、皆さまの「ハウス」(家)でもあるこの「ハウス」に、皆さまをジャパンハウス名誉館長として歓迎させていただきます。同時に、日本からご来伯の特別のお客様方を歓迎致します。在サンパウロ日本国総領事、中前元総領事、同僚のルーベンス・バルボーザ大使、ファウスト・ゴドイ大使、そして本日午前、サンパウロにてジャパンハウスにご出席の方にご挨拶申し上げます。そして誰よりも先に、ジャパンハウス館長のアンジェラさんにご挨拶申し上げます。

先ほど、日本の外交政策についてとても分かりやすく心のこもったご演説を聞きました。取り上げられた話題一つひとつについてコメントすることはできませんが、その内容についてより良く検討する機会を頂きました。外交官としては、外務大臣が解説された今日の世界情勢を理解できます。確かに今の情勢はとても気にかかることでありますが、同時に建設的且つ前向きな精神を持つということを経験する機会でもあります。

もちろん、ブラジルで我々は、世界の課題に挑戦するために、演説で挙げられたように、法の支配や自由貿易、民主主義、人権に関連した考え方に基づく行動を取り、日本と中南米・カリブ海諸国との協業を改善していくことが必要だと考えられます。外務大臣がブエノスアイレスご出張の間にサンパウロまでお越しくださり、大切なお時間を頂いたことをとても感謝しております。私たちはとても長く、お疲れになるご出張だということを理解しています。そのため、河野大臣に感謝いたします。ここで旅の途中の一息という形で考えて頂ければ幸いです。

いずれにしても、こちらにお越しいただいたことは正解でした。なぜならサンパウロは南米で最も日本らしい都市です。サンパウロに止まらずに初の南米・ブラジルご出張はまずありえないことです。我々はこの美しい会場を見るとき、とても誇りに思います。様々なお顔が日本人の顔ですが、実はブラジル人であり、日本コミュニティが如何にブラジル社会に溶け込んでいるかがお分かりになって頂けます。

ご存じの通り、日本人の移住開始以来、今年は110周年を祝います。私たちの多くは日本人の子孫ではありませんが、日本人の移住を通じて日本とブラジルの関係が血の繋がりで結ばれていることに誇りに思っているのです。ご存じでしょうが、日本移民はとても苦勞した時期もあり、それにもかかわらず乗り越え、ブラジルに様々な分野で農業や工業の新たな技術を導入することができました。

また、大臣自身もブラジルの発展及び近代化に関してブラジルにおける日本の協力が如何に重要かを顕著に述べられました。PRODECERについて触れられました。JICAと協業した偉大なプロジェクトです。そのお蔭でブラジルが農業分野における農産物の輸出のため、世界規模の潜在国に変わるための道が開かれました。皆さまはお気づきではないでしょうが、日本はそれらプロジェクトに20年間かけて700億円を投資しました。ブラジルセラーダの状況に日本大豆を適応させるために20年間投資し続けたのです。近代のブラジルにおける最も近代的経済開発及び貿易の成功事例であると誰もが知っています。

そのため、我々は今、日本を目の当たりにし、将来ブラジルの経済を更新且つ近代化す

るために、日本がブラジルと協業することを求めています。ブラジルは今、貿易や国際経済にオープンな態勢をとってきていますが、国はまだ日本から学び、発展しており、ロボット技術や人工知能において常に最先端に立っている日本の援助が必要です。それらの分野で我々はとても援助が必要です。そのため、ブラジルの経済の中心であるサンパウロには、新たな経済状況をもたらしたいと思います。そうすることで、ブラジル工業の近代化に貢献でき、そして来世紀に挑戦できます。

これ以上あまり皆さんのお時間を取りたくありません。本日の会合の多くのご出席者は、外務大臣との話し合いを希望して参加されているため、皆さんご自身が質問される機会を与えたいと思います。しかしながら、手短に一言コメントをさせて頂き、それで私の挨拶を終了します。

日本が G20 の議長国を務めると仰いました。今回のご来伯がちょうどブエノスアイレスでのサミットが行われる時期と重なりとても奇遇です。そのサミット後に間もなく日本は、G20 の今後の会合を設定することになります。

河野大臣、実はもう一つの奇遇があります。約 10 年前に、サンパウロは、G20 が変わり始めた基地です。2008 年の金融危機前に、G20 は、単に専門面でのフォーラムで、中央銀行の代表者や財務大臣が通常参加しなかったものです。少なくとも私が財務大臣だった当時は一度も G20 のサミットに参加しませんでした。(笑) その会議に参加していたのは我々が選抜した代理人たちでした。

金融危機期間中にブッシュ米国大統領が金融危機の国際的要求に米国のみで対応しきれないと観念したときに、偶然なことに、ブラジルは当時 G20 の議長国を務めていました。そのため、ブラジルは会議の設定をするようにと指示を受け、パウリスタ大通りにとても近い場所で開催されました。間違っていなければ、外務大臣が宿泊されているアラメダ・サントスの同じ Tivoli ホテルで開催されたと記憶します。2008 年 11 月 9 日に開催されました。ほぼ 10 年前の話です。

その 1 週間後、11 月 15 日にワシントンで初サミットが開催されました。当時の一番の留意点は、金融危機に続く大惨事をどのようにマクロ経済の制度を通じてコーディネートするかでありました。

ブエノスアイレスに到着されたとき、もしかすると現行金融危機が大分続いていることにお気づきになっていると思いますが、中南米では国際経済に起きている変化がとても心配になっています。数週間前、アルゼンチンは、世界的な金利の上昇、国際経済の深刻な影響により、国際通貨基金をやむを得なく求めることになりました。ブラジルは外貨準備の面でより徹底した体制があり、国際貿易で赤字が出ていないものの、選挙があり政治に対する方向性が不明のため、大きな不安定感があります。

大臣にお願いしたいのは、ブエノスアイレスでの会合のときに、今後のマクロ経済会議で最も先進している国々と新興の国々を上手くコーディネートすることが大事であることを認識してもらうことです。米国でのインフレ率向上や米国の経済成長等、自由貿易の多くの脅威も含む様々な理由のため、利上げは仕方のないことだと承知しています。それでも、より良いコーディネーションと新興国に対する利上げの影響において留意する態勢があればと思います。今、それをご検討して頂くことでブエノスアイレスでの会合がより

上手くいくヒントになるかと思えます。この点をここで取り上げたことは失礼ですが、将来インパクトの恐れがあり、とても懸念していることです。

サンパウロでのご滞在がとても快適であり、ブエノスアイレスでの会合も大きな成功を得ますことを願っております。ありがとうございました。

モデレーター：

ご質問がスクリーンに表示されるための準備ができていれば、そちらに移りたいと思います。大臣、中南米にお越しくださり、スピーチして下さいありがとうございます。また、大使、コメントありがとうございます。今年は選挙もあり、政治の方向性があまり明確ではなく、当然ですが、日本もこの世界政治情勢がどうなっているかお分かりですので、そのように世界政治情勢についてお話を聞くことで何が起きているかが分かります。実際に質疑応答の質問に移る前に、私も質問があります。大臣はこの状況に対してどう評価されているか、また日本の現在のカリブ海と中南米諸国との関係とその国々の将来についてどう思われるか教えて頂けるでしょうか。ブラジルについてでもいいですし、中南米全体についてでも構いませんので、教えて頂ければ幸いです。

河野大臣：

先ほど申し上げたように、日本と中南米はとても似ている価値を共有しています。また、中南米の国々との関係の歴史があります。アルゼンチン、ブラジル、ペルー、コロンビア等と日本移民の歴史があります。今後、自由貿易のような両方通行の形で中南米で増資やビジネスを増すことができると思います。中南米のいくつかの国は既に環太平洋協定に参加していますが、今後地域やサブ地域の貿易に更に浸透していくことを希望しています。そうすることで両側の投資状況の改善と人材交流の期待があります。アルゼンチンとの協定に取り組んでいます。その協定が将来ブラジルにも拡大されることも検討します。待機することにメリットがあると思います。日本とそれぞれの地域のやり取りに期待を持てると思います。私はその実現をととても願っています。そこで終わるわけではありません。また、その地域と日本の間に政治面でもやり取りの場面をつくっていきたいです。もちろん、ブラジルもその中に含まれています。ブラジルと日本は、国際連合の改革や他の課題においては既に緊密に協力し合っています。これは単なる経済的關係に限りません。より徹底した政治的關係を持ちたいです。

モデレーター：

ありがとうございます。大使、何か捕捉はありますか。

では、次の質問は、中国についてどう感じておりますか。日本と中国の協働はどういうものでしょうか。

河野大臣：

日本と中国は数年間の不安定な関係があります。日本、中国、韓国、三国間の会議を行いました。29年ぶりの3カ国会合でした。中国の最高指導者は既に日本を訪問されてい

るため、近いうちに日本の総理大臣が中国を訪れることが期待されています。なので、日本と中国の関係は十分良くなってきていると言えます。中国の経済発展が、リベラルな国際秩序に付いていけば、世界経済の援助となるため、その協力関係をとても援助したいと思います。途上国イニシアティブに関しては、高質企画における国際規格に基づいてそのプロジェクトを開発しています。例えば、全ての国が参加可能のために、プロジェクトはオープンプロジェクトであるべき、そのプロジェクトの内容は明確であるべき、プロジェクト自体の経済が適宜な経済であるべきです。このプロジェクトに参加する国々は、安定した経済構成を持っています。それらが条件です。提案されたプロジェクトがその国際条件を満たしているのであれば、日本は中国とともにそういうプロジェクトに参加します。

モデレーター：

ではこの質問について話したいと思います。日本政府は、「トランプ・パシフィック」、(笑) すみません、「トランス・パシフィック (環太平洋)」同盟について米国支援のためにどのように米国大統領に納得してもらおうつもりですか。

河野大臣：

アジアと太平洋地域に秩序を新規に創り上げる必要があります。そういう意味で米国大統領を説得する必要があります。TPP は投資や貿易への道に限りません。21 世紀にアジアと太平洋地域のための戦略や骨組みになります。そのため、安倍政権は農家や他の工業分野を TPP に加盟するように説得しようとしているのです。その条約に署名してもらうために説得する必要がありますが、トランプ大統領は一步引いたのです。これに我々は衝撃を受けました。米国経済は恐らく世界で最も近代化した経済の一つです。にもかかわらず、サービス分野における金利は、TPP メンバーの中で最も高い国の中にあります。そのため、理屈上で米国は、この条約に一番多くのメリットがあるはずですが、米国は、トランプ政権と共に、他の国と両国間の協定を求めるかもしれません。私たちの見解は、米国が TPP に加盟すれば、米国経済に最も有利なメリットがあります。ところが米国は、米国市場に入る日本製品に対して 25%の関税を課しています。一方、日本の生産側から米国への輸出は、たったの 1.6%にしか及びません。米国に入る鉄鋼製品の大部分は、現地鉄鋼に切り替えられることが可能です。米国の自動車産業に届いている日本の鉄鋼を見ていると、今何が起きているのかというと、米国製造社は単に 25%多めに払っています。そしてそれは米国の競争力を害しています。そのため、トランプ政権にその全てにおいて再検討をお願いしました。実際に我々が懸念しているのは我々の鉄鋼ではありません。なぜなら、それでも我々の鉄鋼は競争力が高いからです。しかし、米国政府が行っていることは、WTO の制度への害になっています。そして WTO の制度は自由貿易の協定の根幹であり、世界繁栄の根幹でもあります。なので、米国政府が一番メリットのある選択肢は TPP であると説得し、TPP を拡大する必要があります。TPP11 を確定次第、韓国や台湾、英国、タイ、香港はそれに興味を示し始めています。米国が TPP11 から外されると、ニュージーランドやオーストラリアの農家に比べて、米国の農家は大きな不利な状況に陥ります。なので、米国が TPP に加盟する理由は百以上あり、加盟しない理由は実際には存在しま

せん。

モデレーター：

ありがとうございます。リクペロ大使、河野大臣の今のコメントに対して質問です。今の米国が意見を変えるには、簡単に説得できると思いますか。

リクペロ大使：

残る理由が論理的な政策だったら、河野大臣は正しいと思います。しかし、選挙やポピュリズム関連等が米国政府の動機付けになっているのであれば、その姿勢が変わるのは難しいと思います。

モデレーター：

ありがとうございます。続きまして、大臣に星占いのような質問です。大臣は、FTAのような協定やメルコスールに関してどう思われているか、そして日本とブラジル両国間の自由貿易協定についてどう思われますか。私が思うには、これは星占いのような議論です。ヨーロッパ人とは過去 20 年間交渉が行われているということも考慮した上で、その協定の交渉はどれぐらいの時間が掛かるでしょうか。

河野大臣：

もちろん、中南米と日本の自由貿易協定を締結したいです。恐らく一つ目の選択肢は関連の国々に聞く、またはその協定に賛成するように頼むことです。一番手っ取り早いやり方です。今は日本と欧州連合の間の経済連携協定（EPA）締結完了の途中です。7月に総理大臣が署名される予定です。また、日本・韓国・中国間の自由貿易協定（FTA）の交渉が進んでいます。そして今は ASEAN 諸国やインド、中国等との自由貿易協定（RCEP）を交渉中です。日本の諸省は、最大限まで各省の手腕を発揮しています。今後、メルコスールとも FTA を交渉したいと思います。全ての国と同時に交渉することは無理だと思いますが、現在の資源で、できるだけ早く中南米と FTA を交渉できたらと思います。FTA も、日本と中南米間に限らず、アジア大陸全体と中南米間の FTA を考慮するのも良いかと思っています。多くの供給網が創れます。例えば、日本はタイやベトナム、フィリピンで自動車部品製造工場を設けて部品を製造しています。日本の自動車製造会社を通じて他国にその部品を輸出しているでしょう。FTA 締結するためのもう一つの理由は、グローバルの流通網を持つこの生産国により多くの収益をもたらすことです。そのため、太平洋を通じてアジア大陸全体を中南米に繋げたいのです。それは今世紀中に今後 25 年の間に実際に実現することが期待できます。

モデレーター：

それはインドパシフィック貿易戦略の一部に当たりますか。そこからどんなメリットがとれるのでしょうか。

河野大臣：

ASEAN 諸国は最初はよく日本を目指していましたが、今は中国やインド、米国も注目しています。製造部門が日本からアジア諸国に移動しているため、ASEAN 諸国に近づくことが期待されています。中南米の経済も人口も成長中です。経済成長は、アジアと中南米を繋ぎ、ASEAN 諸国にとって中南米の国々との協力関係を持つための良い市場になるかもしれません。太平洋を通じてこれは良い選択肢になります。また、海洋秩序も保つことができます。アジア大陸を中南米に繋げようとするとき、法の支配に従うことを検討することが必要です。太平洋でその法の支配を維持し、アジアと中南米の繋がり強化のためのインフラ整備製品に投資することが肝心になります。また、テロ予防や災害管理のための海上警備提供の整備はインドと太平洋における自由貿易の戦略の根幹にあります。インド・太平洋地域での貿易促進に、中南米のいくつかの国が連合することを期待しています。

モデレーター：

会合の前にもう一つの部屋で話していたことに触れますが、北朝鮮と韓国間の交渉について少し安心して眠られていると聞きました。誰もが心配に思っていたことで、とても興味深いのは、国際関係に関してブラジルでの議論で最も顕著な議題になったりすることがありました。北朝鮮との経済統合について、日本の役割はなんでしょうか。何が起きるのでしょうか。

河野大臣：

北朝鮮地域は今、レックス・ティラーソン元米国国務長官は政体変革を含む案を出したにもかかわらず、政体の保持に取り組んでいます。北朝鮮は政体を保持したいのです。経済改革のために、何らかの経済援助が必要です。日本は援助したいのですが、そのためにはいくつかの条件があります。まず一つ目は当然なことに非核化です。二つ目は弾道ミサイルの解体です。三つ目は拉致問題を解決することです。彼らは長年にわたって多くの日本人を拉致しており、北朝鮮で生かしているのです。最善の外交関係開設のために交渉する前に、その日本人たちを戻さねばなりません。北朝鮮と日本間の外交関係の開設後に、喜んで北朝鮮の経済を支援します。北朝鮮には多くの自然資源があります。また、人口も大きいです。経済成長の潜在性が高いのです。繁栄した北朝鮮は、大陸の安定性と繁栄に貢献できます。なので、北朝鮮への経済支援は、実際に中国や日本、北朝鮮自体にとってメリットがあります。核問題の解決を希望するのであれば、我々もそのようにしたいと思います。

モデレーター：

将来、彼らがもっと協力するようになることは想像できますか。

河野大臣：

国際社会のお陰で、今は国連安保理の決議を通じた経済における制裁処置を通し、北朝鮮に最大の圧力をかけています。実際に、そして輸出を通じた外貨収益はほぼ「0」です。

物資や彼らが所有する石油備蓄は、昨年1月以降恐らく9%減少しました。そして我々はまだその制裁措置を維持しています。彼らは実際に国の政治を変える必要があります。彼らは自国の制度を維持できていないため、平昌の五輪に出席しました。彼らは制裁措置から逃れようとしているのです。また、我々は北朝鮮による驚くほど多くのクリプトコイン盗みを見つけ出しています。石油製品が船から船に移される事件もまだ見られます。シナ海で毎日のようにそんなことが起きているのです。米国やカナダ、英国、韓国や他の多くの国はそれを見抜き、防ごうとしています。そのため、国際社会と対話するという唯一の選択肢が残るまで北朝鮮に圧力をかけ続けます。そして、制裁措置を解除するためには、北朝鮮は、ミサイル問題の解決も含み核兵器を解体するために制度修正をせねばなりません。国際社会にとって、その応答を維持すること以外の選択肢が見えません。希望はありますが、米国大統領は以前こうおっしゃったのです。「信じてもいいが、確認すべし。我々の知恵はそこにある」

モデレーター：

素晴らしいです。上記の項目について既に話し合いました。技術に関する質問がありますので、その前のスクリーンに戻ってもいいでしょうか。ブラジルと日本間の貿易を活性化するための主な機会は何でしょうか。技術面では、過去にデジタルテレビ導入があり、ブラジルは日本の技術を選定しました。将来には何が期待できますか。

河野大臣：

人工知能やモノのインターネット、ロボット工学関連のことにより、新たな時代に移行していると思います。それらに関してはまだまだ取り組みの余地がありますが、日本は人口減少という特別な状況に入っています。年間ほぼ50万人が減少しています。そのため、我々は人工知能とロボット工学は職業に対する脅威としては見ていません。いくつかの国では、人工知能やロボット工学は雇用を弱体化するとみられていますが、日本では人工知能もロボット工学、他のイノベーションも歓迎します。ブラジルや中南米の他の国が前向きにイノベーションを見てほしいと思います。そうすることで共に投資できるようになります。疑いなく、より多くのエンジニア、プログラマー、それら産業の専門家が 필요합니다。人口は減少しています。つまり、若い世代がいなくなっています。より多くのイノベーションを生み出すために、ブラジル人の専門家やエンジニアが必要なのです。ブラジルと日本は相補う立場にあると思います。将来協業することに希望があります。

モデレーター：

今回の議論もいよいよ終了に近づいています。外務大臣はこの討論以外に他の用事があります。大使、河野大臣の終わりのご挨拶前にまとめのお言葉をお願い致します。

リクペロ大使：

とても興味深い質疑応答セッションだったと思います。外務大臣もとてもフランクなご回答を下さいました。ブラジルや世界にとって根本的な問題に対して、日本政府の立場を

明確に伝えられたと思います。本日サンパウロにお越しくださって改めて感謝申し上げます。我々にとって、大臣のご訪問を受けることはとても光栄なことであり、今後もう一度両国間の訪問の機会を下さることを願います。日伯関係をより深める機会になるかと思えます。

モデレーター：

ありがとうございます。河野大臣、閉会のご挨拶をお願い致します。

河野大臣：

皆さま、今回ご参加下さり有難うございます。今日は日曜日でしたね。(笑) 外務大臣になると、週の何曜日なのか忘れてしまいます。日曜日の朝なのに、ご出席頂いて感謝いたします。とても快く私をジャパンハウスに歓迎して下さい有難うございます。年間最高11万5千人の来客を期待していましたが、もうじき80万人に到達します。これはとても素晴らしい成功です。今回初めてのジャパンハウス訪問ですが、とても驚いています。今後更なる成功のためにも、ジャパンハウスをよろしく願いします。以前にも話したように、今年は日本移住110周年の記念の年です。日本とブラジル両国間でより多く祝われることを期待しています。G4に関して共に取り組むことに限らず、他の国際構成でも共に取り組んでいくことができると思います。今回が私のブラジルへの初訪問ですが、戻ってくることをお約束します。また、将来、後任の日本外務大臣も個人の飛行機があっても無くても、ブラジルを訪問し続けることを願います。(笑) ありがとうございました。



質疑応答の河野大臣